

「ヤマトネイチャーサークル」は、株式会社ヤマトが行っている様々な自然環境への取り組みの総称です。

さらなる自然との共生を目指し、地域社会や自然環境への貢献を目的として「ヤマトネイチャーサークル」は幅広い情報発信をしていきます。

葉画家 群馬直美の ヤマトビオトープ園の 葉っぱたち vol.26



ミツマタの花

なんてオシャレなシャンデリア

紙(ファブリアーノ) / テンペラ

size:335mm × 245mm

©Naomi Gumm

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎生まれ。農大二高、東京造形大絵画科卒。大学在学中に新緑の美しさ、その生命力に癒され、葉っぱをテーマとする創作活動に入り葉画家となる。2015年6月ヤマトギャラリーホールにて個展開催、好評を博す。東京都立川市在住。

【<http://www.wood.jp/konoha/>】

「葉画家・群馬直美のヤマトビオトープ園の葉っぱたち」

バックナンバーは、Webヤマトネイチャーサークル
【<http://www.yamato-biotope.jp/>】にて、随時公開中です。

是非ご覧ください。

葉画家・群馬直美の ビオトープ 3月の肖像



フクジュソウ

旧正月を迎えて 10 日が過ぎた。今日、月一ビオトープ園散歩に行くと、枯れ葉色の地面からフクジュソウの黄色い花が 3 つ顔を出していた。1 つは大きく開いて、残り 2 つは半分くらい開いている。よく見ると地面のところどころが赤茶色くふくらんでいる。これから黄色い春の妖精たちが続々と地上に現れる。

「フクジュソウの花が咲いたよ」

と受付嬢のミカンちゃんに言うと、太陽のような笑顔で喜んでくれた。

というのも先ないほど「ビオトープ園のフクジュソウが今年はまだ咲いいないんです。枯れてしまったんでしょうか?」と心配しきりのミカンちゃんに

「フクジュソウを夜な夜な植えにくる福々おじさんが今年は忙しいのかも」

とうそぶいていたからだった。

春の妖精たちの開花にわくビオトープ園を後にして、観音山山頂の

高崎市染料植物園へ。なんとこちらも満開のフクジュソウ。

日当たりのよいところのは、花に加えて緑色の纖細な葉っぱもふさふさ。こうなってくるとちょっと趣きがない。やっぱり私は荒れ野のような大地から、こうむくむくっと起き上がったばかりのフクジュソウが好きだ。などと思っていると、「フクジュソウの花は太陽の光を浴びると開き、パラボナアンテナのように開いた花の真ん中に日光を集め、その熱で虫たちをおびき寄せ受粉を完了させるんですよ~」

と染料植物園の園長さん。春の訪れをいち早く伝えるフクジュソウの黄色い花は、虫たちの冷えたからだをあたためるホットフラワーでもあったとは。夏になると枯れ果て、地上から姿を消すフクジュソウ。

1 年の大半を地下で過ごす。

フクジュソウの黄色い花を咲かせる

福々おじさんは、地面の下にいたんですね。 写真と文・群馬直美

